

意見書案第6号

ブラッドパッチ療法（硬膜外自家血注入療法）に対する適正な診療上の評価
等を求める意見書の提出について

別紙、ブラッドパッチ療法（硬膜外自家血注入療法）に対する適正な診療上の評価等を
求める意見書を関係方面に提出されたく、宝塚市議会会議規則第15条第1項の規定によ
り提出いたします。

令和5年（2023年）10月6日

宝塚市議会議長 富川晃太郎様

（発議者）

宝塚市議会議員	大川裕之
同	池田光隆
同	三宅浩二
同	寺本早苗
同	大島淡紅子
同	田中こう

ブラッドパッチ療法（硬膜外自家血注入療法）に対する適正な診療上の評価
等を求める意見書

交通事故、スポーツ、落下事故、暴力など全身への外傷等を原因として発症する脳脊髄液漏出症（減少症）によって、日常生活を大きく阻害する様々な症状に苦しんでいる患者の声は、全国各地から国へ数多く寄せられていた。その後、平成18年に山形大学を中心に関連8学会が参加し、厚生労働省研究班による病態の解明が進んだ結果、平成28年より同症の治療法であるブラッドパッチ療法（硬膜外自家血注入療法）が保険適用となった。

その結果、それまで高額な自費診療での治療を必要としていた患者が、保険診療のもとにブラッドパッチ療法を受けることができるようになったが、脳脊髄液漏出症（減少症）の患者の中には、保険適用J007-2の要件に掲げられている「起立性頭痛を有する患者に係る者」という条件を伴わない患者がいるため、医療の現場では混乱が生じている。

また、その後の研究で、脳脊髄液の漏出部位は一か所とは限らず、頸椎や胸椎部でも頻繁に起こる事が報告された。ここで、この頸椎や胸椎部にブラッドパッチ療法を安全に行うためには、X線透視下で漏出部位を確認しながらの治療が必要であるが、診療上の評価がされていない現状がある。

よって政府においては、上記の新たな現状を踏まえ、脳脊髄液漏出症（減少症）の患者への、公平で安全なブラッドパッチ療法の適用に向け、以下の事項について適切な措置を講ずるよう強く要望する。

記

一、脳脊髄液漏出症（減少症）の症状において、約10%は起立性頭痛を認めないと公的な研究でも報告があることを受け、算定の要件の注釈として「本疾患では起立性頭痛を認めない場合がある」と加えること。

一、ブラッドパッチ療法（硬膜外自家血注入療法）の診療報酬において、X線透視を要件として、漏出部位を確認しながら治療を行うことを可能にするよう、診療上の評価を改定すること。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出します。

令和5年（2023年）10月6日

文部科学大臣

厚生労働大臣

国土交通大臣 あて

宝塚市議会議長 富川 晃太郎